Group-12

「誰でも隔てなく来れる こどもの居場所をつくる」

こどもの孤立を防ぐ居場所づくり





放課後児童クラブや放課後等デイサービスは利用制限があり、
こどもの居場所が不足しているため、こどもたちが自由に集える居場所をつくる

現状の問題・課題

①幼児期を過ぎたこどもが自由に過ごせる場所がない
②放課後児童クラブや放課後等デイサービスは利用できる人が限定される
③こどもが自由に自分の気持ちを話せる（こどもの権利が大切にされる）場がない
④こどもの心の避難場所・ヘルプを出せる場が必要

参考事例・備考

・居場所の候補…交流館や放課後児童クラブ
・期間・場所を限定したモデルから始め、5年後は各学区へ拡大
・こどもが1人でも行けるように
・できれば夜遅くでも行けるといい
・ネウボラの方が居場所を巡回することで心配な子を早くキャッチできる
・学習機会もつくれたら不登校支援にもつながる

各主体の役割・取組

市民

・若者に対する理解を深め、行政に思いを届ける
↑各ボランティアの情報を活用できるよう手配をお願いする。（キラキラ/親プロ/ファミサポ/スクールサポートボランティア等）
・縦割りをなくしてみんなで一緒に居場所づくりを！
地域の高齢者にも参画してもらう。

企業

・スタッフを派遣
・資金や運営費をサポートする
↑企業版ふるさと納税つくる等
・場の提供もする

子育て支援団体

・居場所として活用可能な場所を調査する
・大学生とも協働して居場所運営する（単位にできるといい）
→教員志望者にもいい学びになるのでは